



ぶらり相生第9号  
平成29年10月

## 「親子のめぐりあい 和泉式部伝説の地」

「あらざらむ この世のほかの 思ひ出に  
いまひとたびの あふこともがな」この歌は  
百人一首でお馴染みのことでしょう。中古三  
十六歌仙、女房三十六歌仙と称された和泉式  
部の歌です。この相生にも和泉式部の歌が残  
されています。

「<sup>むしろ</sup>苔筵敷島の道に行きくれて雨の内にし宿  
る木のかげ」旅の途中雨に降られた式部が雨  
宿りして、このことがきっかけとなって、生  
き別れていた娘、小式部内侍と再会します。  
小式部内侍は、最初の夫であった和泉守橘道  
貞との間に生まれます。やがて、別離し、その後は数多くの恋愛を重ねて、  
藤原道長からは「浮かれ女」と呼ばれたといわれます。



次のような伝説が、若狭野に伝わっています。

和泉式部は、病身の昌子内親王（第63代天皇冷泉天皇中宮、在位は967（康  
保4）年から969（安和2）年）にお仕えしていたため、矢野荘から中央貴族  
のところへ出入りをしていた五郎太夫に娘を預け、養育してもらっていました。  
1004（寛弘元）年頃、この地に迎えに来たといわれています。その娘こそが後  
の小式部内侍で、一流の歌人となります。しかし、1025（万寿2）年若くして  
亡くなります。1026（万寿3）年、再びこの地を訪れましたが、世話をしてく  
れた五郎太夫は既に亡くなっていました。和泉式部は、大木を神木として奉じ  
二人の冥福を祈ったとされています。その後、薬師堂（写真）が建立され、薬  
師堂祭が今日まで年中行事としてこの地に伝承されています。

和泉式部の伝説は、北海道から九州までの広い範囲に、数多く残されていま  
す。相生も、書写山参詣の帰途、娘の小式部を若狭野を訪ねる式部伝説の地  
とされています。